

2018年度は、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の同時改定があり、第7次医療計画や第7期介護保険事業計画などもスタートしました。制度改革の大波に吞まれ沈没しないよう、疾病構造や医療ニーズの変化に的確に対応した舵取りが求められています。

当院の最優先課題は神経難病病棟の建て替えです。新病棟名は上杉鷹山公の「伝国」に由来するD病棟に決定しました。鷹山公は「伝国の辞」で国のあり方、領主の心構えを伝えました。我々が受け継ぎ伝えていくものは医療のあり方（患者目線に立った信頼される質の高い医療の提供）、医療人としての心構えと心得ます。地域医療構想に基づき当院の診療機能をより一層充実させるために、早急に神経難病病棟の建て替えを実現させたいと考えております。

米沢病院のメンバーをご紹介します。高橋利幸先生、小林潤平先生（4月より）、赤石哲也先生（3月まで）中村貴彬先生（仙台医療センター併任）、漢方内科担当の沼田健裕先生に診療いただいております。国立病院機構共同研究、NMOおよび関連疾患の早期診断と病態機序解明、漢方薬による神経疾患治療研究、認知症早期診断と病診連携等が軌道にのり先生方それぞれ成果をあげられ、精力的に活躍されております。

山形県南（置賜地域）における中枢神経疾患の基幹施設に位置づけられる当院は、脳卒中重度後遺症、重症心身障がい、神経難病医療において中心的役割を果たすとともに、米沢市「脳卒中予防事業」および「認知症予防事業」にて一翼を担い地域医療に貢献しています。置賜地域の面積は佐賀県・神奈川県とほぼ同等ですが神経学会専門医が5名しかおりません（3名は当院）。当院への期待は増し仕事量は増える一方ですが、先生方が存分に能力を発揮できるようワーク・ライフ・バランスを尊重しながら環境整備に努めております。社会人大学院制度も利用できますので御相談下さい。

米沢は「食と温泉の王国」として知名度を高めていますが、上杉謙信公の「義」を尊ぶ精神文化が息づく街でもあります。伊達政宗公の生誕の地でもありますし小野小町が開湯したといわれる小野川温泉には女性のパワースポットもございます。是非一度、御探訪下さい。お待ちしております。

冒頭の一文は、米沢藩第9代藩主である上杉鷹山公の遺訓「なせばなる（注）」を英訳したものです。

注：全文は「なせばなる なさねばならぬ何事も ならぬは人のなさぬなりけり」

（文責：飛田宗重）

外来患者数	2,669名
退院患者数	63名
剖検数	0
論文・総説その他	英文14、和文4

学会発表数

国際学会 0

国内学会 37

研究会・講演会発表 0

助成金数 0

*写真の説明：♪～大きな桜の木の下で～(^.^)♪

